

## WHO-FIC トリエステ会議について

- 主催： WHO、WHO-FIC イタリア協力センター共催  
開催期間： 平成 19 年 10 月 28 日(日)～11 月 3 日(土)  
会場： イタリア国フリウーリ＝ヴェネツィア・ジュリア州トリエステ市  
Plalazzo dei Congressi (議会堂)  
参加者： WHO、協力センター10カ所、厚生、統計関係部局、オブザーバー等 27カ国  
168名が参加

### 主な議題について：

#### (1) ICD-11 改訂及び改訂運営会議(RSG)からの進捗状況報告

- \* ICD revision の方向性及び最終イメージについて RSG シュート議長より提示
- \* 各 TAG のチェアより改訂の現状報告
  - ・ 精神(2007年1月に第一回会合を開催。改訂に関するペーパーを準備中。)
  - ・ 希な疾患(Orphanet のデータベースと ICD をリンク。第 17 章を担当。)
  - ・ 外因(ICECI 等の分類との整合性を図る。改訂に関するペーパーを作成。)
  - ・ 内科(WG を組織化。)
  - ・ 腫瘍(IARC 等と協調。ICD-O 等の既存の分類の考え方を導入。)
  - ・ その他(感染症、歯科、眼科、産科、小児科領域等の専門家とコンタクト。)

#### (2) ICF 活用の新しい展開についての報告

- \* ICF-CY に関するベニス会議の報告
- \* ICF におけるターミノロジーの開発など

#### (3) 各種委員会報告

##### ● 企画実行委員会(Planning Committee)

##### 1) planning committee から council(仮称)へ組織が変更(詳細未定)

- \* council のメンバーは以下のとおり
  - ・WHO 担当官(地域事務局を含む)

- ・各委員会及びレファレンスグループのチェア(RSGのチェアを含む)
- ・協力センター長(申請中も含む)

- \* 初代 council(仮称)のチェアを選出(任期2年)
- ・マハティ・ベトナム氏(ノルディックセンター長)
- ・マージョリー・グリーンバーグ女史(北米センター長)

## 2) annual meeting(年次会議)から assembly(仮称)へ組織を変更(詳細未定)

- \* assembly(仮称)の参加資格(WHO担当官以外)
- ・協力センターからの代表
- ・WHOと公式な関係を有するNGOからの代表
- ・WHO本部が参加を認めたWHO加盟国からの代表(日本はここに該当することになる)

### ● 普及委員会(Implementation Committee(IC))

- \* 第2回アジア・パシフィックネットワーク京都会議について報告
- \* アジア・パシフィック地域以外の地域の情報の共有化、連携の可能性についての検討

### ● 分類改正改訂委員会(Updating and Revision Committee (URC))

- \* ICDの改正について125議題について審議;
- ・89提案受け入れ

### ● 教育委員会(Education Committee(EC))

- \* 死因コーディング認定プログラムの完成
- \* 疾病コーディング認定プログラム作業の開発

### ● 電子媒体委員会(Electronic Tools Committee(ETC))

- \* ICDメンテナンスツールの改訂作業
- \* ICD-11改訂作業ツールの開発

### ● 国際分類ファミリー拡張委員会(Family Development Committee(FDC))

- \* 看護の国際分類(International Classification of Nursing Practice(ICNP))(仮称)の国際分類ファミリーへの加入(関連分類)を勧告
- \* 伝統医学(Traditional Medicine)の国際分類ファミリーへの加入(関連分類)を検討

- 死因分類改正グループ(Mortality Reference Group (MRG))
  - \* 死因分類に関する 50 議題を議論;
    - ・15 合意(URC へ提出)
    - ・ 5 要点合意(修正ののち URC へ提出)
  - \* RSG への参加(共同議長のオブザーバー参加を提案)
  
- 疾病分類グループ(Morbidity Reference Group (MbRG))
  - \* 疾病分類について 12 提案を URC へ提出
  - \* 共同議長の交代(R.マッデン氏から K.アイネス氏へ)
  
- ターミノロジーグループ(Terminology Reference Group (TRG))
  - \* WHO-FIC と IHTSDO の連携について議論
  - \* 分類とのマッピング作業を検討
  
- 生活機能分類グループ(Functioning and Disability Reference Group (FDRG))  
(基準、改正、ICD との調和、測定と活用、教育、倫理、環境因子、ターミノロジーに関する 8 つのプログラムにより構成)
  - \* 改正のサイクルを提案
  - \* オントロジーの作成を検討
  
- URC、MRG、MbRG 合同会議
  - \* 大改正(Major update)は、当初予定の 2009 年から 2010 年に延期。小改正(Minor update)は 2012 年まで実施
  - \* MRG の共同議長が、RSG にオブザーバー参加することを WHO 事務局に提案

次年度開催予定:平成 20 年 10 月 26 日(日)~11 月 1 日(土)インド

## WHO-FICTリエステ会議を踏まえた「国際生活機能分類」の現状

### (1) 分類そのものとしての進展

開催前の状況 ICFは、平成13年のWHO総会で採択されて分類としては完成しており、日本では翻訳版である「国際生活機能分類」を平成14年に発行した。

年次会議での進展 今次年次会議では、ICDと同様に、URC(改正改訂委員会)による改正・改訂の段階に入る方針が示された。さしあたり改訂は行わず改正のみ行われる予定で、ICDと同様、インターネット上のユーザ階層ごとのアクセス許可による「プラットフォーム形式」で意見集約、議決、改正のサイクルを行うことが提案された。

### (2) 各分類項目における評価基準の設定

開催前の状況 第3回生活機能分類専門委員会において、分類項目の要素が「活動」または「参加」であるものについてWHOでの議論に先駆けて評価点基準(案)の作成を行った。

年次会議での進展 今次年次会議では、今後、WHOにおいても、「コーディング基準」を作成していくことについて言及されたが、詳細については今後FDRG(生活機能分類グループ)で議論される予定である。

### (3) 実用的なユーザインターフェイスの工夫

開催前の状況 ICFのすべての分類項目(約1,500項目)を評価することは困難であるので、今後実用に供する段階では、用途に応じて、標準的なセット分類項目を抽出する等の工夫をする必要がある。

年次会議での進展 今次年次会議では、このような用途別の分類項目のセットの今後の開発の可能性について、汎用的ICFコアセット(Generic ICF Core Set)と、状況・状態別ICFコアセット(Condition and/or context oriented ICF Core Sets)の開発について提案された。また、一例としてコンピュータ・ソフトウェアを使用した測定評価結果入力ツールを紹介する中でもユーザインターフェイスの工夫について言及された。

#### (4) 簡単で容易に利用可能な普及資料の開発

開催前の状況 国内におけるICFの正しい普及・啓発を図る手引きとして本年3月に「生活機能分類の活用に向けて—ICF(国際生活機能分類):活動と参加の基準(暫定案)—」が出版された。

年次会議での進展 このような普及資料として、「ビギナーズ・ガイド」に加え、今年年次会議では、コーダーの教育等に用いられる「カリキュラム」や「トレーニング用入門教材」、多目的の使用に資する「ガイドライン」等について言及された。

#### (5) 実地活用について

開催前の状況 評価対象者本人を含めたさまざまな利用者間の共通言語としての理念的位置付けや、多方面での汎用性の高い利活用を現実化していくため、具体的な活用方策の検討が求められている。

年次会議での進展 今年年次会議では、保健サービスでの測定尺度としての利用や統計分野、社会政策等での活用について、有効利活用を促す議論がなされた。

#### (6) ICF-CYの進捗

開催前の状況 確定版は出ていなかったが、草案や概要、対象や基本方針等が示されていた。

年次会議での進展 確定版が発表された。ICF-CYでは、例えば「d816:Preschool life and related activities(就学前の生活と関連活動)」等の項目がICFに追加されており、より小児・青少年の健康と生活機能の特徴を踏まえたものになっている。

#### (7) ICFとICF-CYに係るWHO-FIC組織体制

開催前の状況 FDRGとその下に8つのプログラムが組織されていた。

年次会議での進展 ICFIに関する組織体系に変更はなかったが、EC(教育委員会)とFDRG等、関連組織間の連携が進んだ。

## 国際生活機能分類—小児青少年版（仮称）について

### 1. 国際生活機能分類—小児青少年版（仮称）（ICF—CY）の勧告と今後の動向

- (1) 国際生活機能分類—小児青少年版（仮称）（International Classification of Functioning, Disability and Health - Children & Youth version）（ICF—CY）は、小児青少年期における生活機能の特性に鑑み、国際分類ファミリーの中心分類である国際生活機能分類（ICF）を補完する目的で、派生分類として開発された。
- (2) 2006年 WHO—FIC チュニス会議において正式に承認され、2007年 WHO—FIC トリエステ会議の直前、10月25日～26日イタリア、ベニスにおいて正式に発表され刊行物が配布された。
- (3) ICF—CY の普及及び改善等については、チュニス会議において発足した生活機能分類グループ（FDRG）等で検討が進められることとされ、ICF 本体と連動して、改正を行う予定である。

### 2. 国際生活機能分類—小児青少年版（仮称）（ICF—CY）の主な内容

- (1) ICF—CY は ICF の派生分類であり、18歳未満の新生児・乳幼児・児童・青少年を対象とする。（ICF—CY の対象は、国連「児童の権利条約」にのべられている18歳未満のすべての者をいう）
- (2) ICF 本体との関係：派生分類として ICF 本体から由来し、それと完全な整合性を持ち、分類構造、カテゴリーを同じにする。  
ICF 本体は本来総合的なものであったが、成長・発達期の特徴を記録する用途としては、改善点も指摘されていたため、それを補うものである。
- (3) ICF—CY は WHO—FIC の一つであり、児童・青少年期の保健領域及び保健関連領域の情報について ICD—10 と他の派生分類・関連分類と共に用いるべきものである。

- (4) ICF-CY と ICF 本体との違いは次の 4 点である。
- (a) 記述内容の修正と拡張
  - (b) 新しい項目を未使用コード番号に割り振る
  - (c) 「含まれるもの」「除かれるもの」の規定の修正
  - (d) 評価点を拡張して発達の側面を含める
- (5) 追加、修正された主な項目
- 第 1 レベル（章立てレベル）での両者の違いはないが、それ以下のレベルでの追加がみられる。
    - <心身機能> 第 1、4～7 章に一部追加
    - <身体構造> 第 1、3、7、8 章に一部追加
    - <活動と参加>
      - ・第 1 章から第 9 章までの各章で追加がみられる
      - ・とくに第 1 章「学習と知識の応用」第 2 章「一般的な課題と要求」第 8 章「主要な生活領域」に集中している。
    - <環境因子> 第 1、5 章に一部追加
  - 児童・青少年期に特有な項目が追加されている。
    - ・「d 3 3 1 Pre-talking」
    - ・「d 8 1 6 Preschool life and related activities」
    - ・「s 3 2 0 0 0 Primary dentition」 等
  - 既存の項目が一部修正され、例示の部分が変更されているものがある。
    - ・「d 5 1 0 6 Regurgitation and vomiting」→「「d 5 1 0 6 Vomiting」  
Functions of moving food or liquid in the reverse direction to ingestion, from stomach to oesophagus to mouth and out, such as in gastroesophageal reflux, recurrent vomiting, pyloric stenosis. 等

### 3. 国際生活機能分類—小児青少年版（仮称）ICF-CY の国内への適用について

国内への適用に向けた今後の対応（案）

- ICF-CY のプレス発表について社会保障審議会統計分科会へ報告。

- 専門性の高い個別具体的な審議内容であることから
  - ・ 検討体制については、小児青少年領域の専門家の意見を反映するための体制の構築を行う。
  - ・ 検討内容を関係省庁、関係部局、関係団体等に送付し意見聴取を行う。
  - ・ 集約した意見をとりまとめ委員会において検討する。
  
- ICF 専門委員会における検討結果を統計分科会に報告。
  
- 「国際生活機能分類—小児青少年版（仮称）（ICF-CY）日本語版」の刊行。





News Release WHO/59  
24 October 2007

## WHO PUBLISHES NEW STANDARD FOR DOCUMENTING THE HEALTH OF CHILDREN AND YOUTH

**24 October 2007 GENEVA/VENICE** -- WHO publishes the first internationally agreed upon classification code for assessing the health of children and youth in the context of their stages of development and the environments in which they live.

The *International Classification of Functioning, Disability and Health for Children and Youth* (ICF-CY) confirms the importance of precise descriptions of children's health status through a methodology that has long been standard for adults. Viewing children and youth within the context of their environment and development continuum, the ICF-CY applies classification codes to hundreds of bodily functions and structures, activities and participation, and various environmental factors that restrict or allow young people to function in an array of every day activities.

The rapid growth and changes that occur in first two decades of life were not sufficiently captured in the *International Classification of Functioning, Disability and Health* (ICF), the precursor to the ICF-CY. The launch of the ICF-CY addresses this important developmental period with greater detail. Its new standardized coding system will assist clinicians, educators, researchers, administrators, policy makers and parents to document and measure the important growth, health and development characteristics of children and youth.

Children who are chronically hungry, thirsty or insecure, for example, are often not healthy and have trouble learning and developing normally. This classification provides a way to capture the impacts of the physical and social environment so that these can be addressed through social policy, health care and education systems to improve children's well-being.

"The ICF-CY will help us get past simple diagnostic labels. It will ground the picture of children and youth functioning and disability on a continuum within the context of their everyday life and activities. In this way it enables the accurate and constructive description of children's health and identifies the areas where care, assistance and policy change are most needed," said Ros Madden, Australian Commission on Safety and Quality in Health Care, and, Chair of the Functioning and Disability Reference Group of the WHO Family of International Classifications (WHO-FIC) Network.

The ICF-CY has important implications globally for research, standard setting and mobilizing resources. "For the first time, we now have a tool that enables us to track and compare the health of children and youth between countries and over time," said Nenad Kostanjsek of WHO's Measurement and Health Information team. "The ICF-CY will allow countries and the international community to take informed action to improve children's health, education and rights, by treating their health as a function of the environment that adults provide."

## News Release WHO/59

### Page 2

The classification also covers developmental delay. Children who achieve certain milestones later than their peers may be at increased risk of disability. Using this classification, health practitioners, parents and teachers can describe these delays precisely in order to plan for health and educational needs and frame policy debates.

The children and youth version of the *International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF-CY)* is launched today in Venice, with international praise:

– "The publication of the ICF-CY by the WHO provides, for the first time, a standard language to unify health, education and social services for children," said Dr. Margaret Giannini, Director of the Office of Disability, U.S. Department of Health and Human Services.

– "This approach offers a scientific basis for describing each child's functional abilities using a shared language. Further, the ICF-CY has important implications for educational policy, research, and service designs for children and youth with disabilities," said Mary Ruth Coleman Ph.D., President Council for Exceptional Children (2007).

– "The ICF-CY is a tool that can be shared by clinical services as well as by schools, community agencies and government entities. Further, with the visibility of an international WHO standard, the ICF-CY can serve to affirm the universal needs and rights of children," said Rune J. Simeonsson, Chair, WHO Work group on ICF-CY Children and Youth; University of North Carolina.

– "The approach of focusing on how children and youth function physically, socially and mentally within the context of their development and environment has important implications for special education," said Yutaka Oda, President, National Institute of Special Education, Japan.

---

#### **For further information, please contact:**

Nenad Kostanjsek, Technical Officer, WHO, Geneva. Telephone: +41 22 791 3242; Fax: +41 22 791 4894; E-mail: [kostanjsek@who.int](mailto:kostanjsek@who.int). Website for the ICF: <http://www.who.int/classifications/icf/en/>.

Lina Reinders, Communications Officer, WHO, Geneva. Telephone: +41 22 791 1828; Fax: +41 22 791 1967; E-mail: [reindersl@who.int](mailto:reindersl@who.int).

All WHO Press Releases, Fact Sheets and Features as well as other health information can be obtained on the WHO home page <http://www.who.int/>.

International Classification of Functioning, Disability and Health: Children and Youth Version (ICF-CY) is currently available in English through: WHO Press, 1211 Geneva 27, Switzerland, Tel +41 22 791 24 76, Fax +41 22 791 48 57, E-mail: [bookorders@who.ch](mailto:bookorders@who.ch). Publication in other languages and in a multilingual CD-ROM version are upcoming. Order forms are available at: [www.who.int/bookorders/en](http://www.who.int/bookorders/en).

All press releases, fact sheets and other WHO media material may be found at [www.who.int](http://www.who.int).

世界保健機関

報道

ウェブサイト : [www.who.int](http://www.who.int)

1211 Geneva 27 Switzerland

電話 : (41)22.791.21.11

Fax : (41)22.791.31.11

E-mail : [inf@who.int](mailto:inf@who.int)

プレスリリース WHO/59

2007年10月24日

## WHOが小児・青少年の健康の記録を目的とした新しい標準を発表

**2007年10月24日** ジュネーブ／ベネチア－WHOは、小児・青少年の発達段階および彼らが置かれている環境に照らして彼らの健康を評価するため、初の国際的な合意に基づく分類コードを発表する。

**国際生活機能分類－小児青少年版 (ICF－CY)** は、長らく成人のための標準であった方法論により、小児の健康状態を正確に記述することの重要性を再確認するものである。小児・青少年を彼らの置かれた連続的な環境と発達という文脈のなかでとらえつつ、ICF-CYは、何百もの心身機能・身体構造、活動、参加、そして日々の一連の活動において若者の機能を妨げあるいは許容するさまざまな環境因子に分類コードを適用している。

人生の最初の20年間におこる急激な成長と変化は、ICF-CYの前駆的分類である**国際生活機能分類 (ICF)** においては十分に把握されていなかった。ICF-CYの発表により、この重要な発達時期に対するよりきめ細やかな対応が可能になる。ICF-CYにおける標準化された新コーディングシステムは、臨床家・教育者・研究者・管理者・政策決定者、そして親が、小児・青少年の健康と生活機能の特徴を記録することを支援する。

例えば、慢性的に空腹・喉の渇きがあり、不安を感じている小児は健康でない場合が多く、正常な学習・発達が困難である。この分類は物理的・社会的環境の影響を把握する方法を提供し、社会政策、医療および教育システムを通じてそれらに取り組むことで小児の安寧を促進するものである。

世界保健機関国際分類ファミリー (WHO-FIC) ネットワーク生活機能分類グループ議長である Australian Commission on Safety and Quality in Health CareのRos Maddenは「ICF-CYは我々が単純な診断名から卒業する手助けになろう。それは日々の生活および活動という文脈の中で継続的に小児・青少年の生活機能の実態を示すだろう。ICF-CYにより小児の健康を正確かつ建設的に記述できるようになり、ケア、支援、政策変更が必要とされる分野を特定することができる。」と述べている。

ICF-CYは、研究、標準化、リソース動員に対して世界的に重要な示唆を与える。WHO 測定・健康情報チーム（WHO's Measurement and Health Information team）のNenad Kostanjsekは「我々は、異なる国々における小児・青少年の健康を経時的に追跡・比較することができるツールを今はじめて手にしたのである。ICF-CYによって、国々および国際社会が、大人が提供する環境を変数として小児の健康は規定されるものととらえることにより、小児の健康・教育・権利を向上させるために情報に基づいた行動をおこすことができるようになる。」と述べている。

## プレスリリース WHO/59

### Page 2

またこの分類は発達遅延もその対象としている。同年代の小児よりも遅れて一定の発達段階に到達した小児は障害のリスクが高い場合がある。この分類を使用することで、医療関係者・親・教師はそれらの遅延を正確に記載することができ、健康・教育上のニーズについて計画を立て、政策に関する議論の枠組みを提供することができる。

**国際生活機能分類—小児青少年版（ICF—CY）** は本日ベネチアにおいて発表され、国際的に高い評価を得ている：

— 「WHOがICF—CY を発表したことで、小児のための健康・教育・社会福祉を一元化するための共通言語がもたらされた。」と米国・保健福祉省 障害者部門長（Director of the Office of Disability）のDr.Margaret Giannini は述べている。

— 「このアプローチは、共通言語を使用して個々の小児の機能的能力を記述するための科学的根拠を提供している。さらにICF-CYは障害を持つ小児・青少年のための教育政策・研究・サービス設計に重要な示唆を与える。」と特殊教育評議会（Council for Exceptional Children）理事のMary Ruth Coleman Ph.D.は述べている（2007）。

— 「ICF-CYは学校、地域機関、政府機関はもとより臨床サービスでも共有することができるツールである。またWHOの標準として国際的に認知されるため、ICF-CYは小児の普遍的なニーズおよび権利を再確認する役目を果たすことができる。」とICF-CY小児・青少年版のWHOワークグループ議長でノースカロライナ大学のRune J. Simeonssonは述べている。

— 「小児・青少年の身体的・社会的・精神的な機能について、彼らの発達・環境という文脈の中で重点的に取り組むというアプローチは特殊教育に重要な示唆を与える。」と日本の国立特別支援教育総合研究所 理事長の小田豊は述べている。

さらに詳細な情報については以下に問合せのこと：

Nenad Kostanjsek, ジュネーブ・WHO技術官 電話：+41 22 791 3242；ファクス：+41 22 791 4894；E-mail：[kostanjsek@who.int](mailto:kostanjsek@who.int). ICFのウェブサイト：<http://www.who.int/classifications/icf/en/>.

Lina Reinders, ジュネーブ・WHO通信官 電話：+41 22 791 1828；ファクス：41 22 791 1967；E-mail：

[reindersl@who.int](mailto:reindersl@who.int).

WHOのすべての報道発表、データ表、作品およびその他の健康情報は次のWHOホームページで入手可能：

<http://www.who.int/>.

国際生活機能分類：小児青少年版（ICF-CY）の英語版が、現在は以下を通じて入手可能：

WHO Press, 1211 Geneva 27, Switzerland, Tel +41 22 791 24 76, Fax +41 22 791 48 57, E-mail:

[bookorders@who.ch](mailto:bookorders@who.ch). 他言語版および多言語によるCD-ROM版は近日発表予定。

注文フォームは右のアドレスで入手可能：[www.who.int/bookorders/en](http://www.who.int/bookorders/en).

すべての報道発表、データ表およびその他の報道資料は次のWHOホームページで閲覧可能：[www.who.int](http://www.who.int).

**Towards  
a  
Common Language  
for  
Functioning, Disability and Health  
ICF**



World Health Organization  
Geneva  
2002

**Towards a  
Common Language  
for  
Functioning, Disability and Health:**

**ICF**

**The International Classification  
of Functioning, Disability and Health**

|  |           |
|--|-----------|
| <b>Introduction</b>                              | <b>2</b>  |
| <b>ICF and the WHO Family of Classifications</b> | <b>3</b>  |
| <b>The need for ICF</b>                          | <b>4</b>  |
| <b>How will WHO use ICE</b>                      | <b>5</b>  |
| <b>How can ICF be used?</b>                      | <b>6</b>  |
| <b>The Model of ICF</b>                          | <b>9</b>  |
| <b>Concepts of functioning and disability</b>    | <b>10</b> |
| <b>The qualifiers</b>                            | <b>11</b> |
| <b>Underlying principles of ICF</b>              | <b>14</b> |
| <b>The Domains of ICF</b>                        | <b>15</b> |
| <b>Conclusion</b>                                | <b>19</b> |
| <b>The World-Wide ICF Network</b>                | <b>20</b> |

## INTRODUCTION

The *International Classification of Functioning, Disability and Health*, known more commonly as ICF, provides a standard language and framework for the description of health and health-related states. Like the first version published by the World Health Organization for trial purposes in 1980, ICF is a multi-purpose classification intended for a wide range of uses in different sectors. It is a classification of health and health-related domains -- domains that help us to describe changes in body function and structure, what a person with a health condition can do in a standard environment (their level of capacity), as well as what they actually do in their usual environment (their level of performance). These domains are classified from body, individual and societal perspectives by means of two lists: a list of body functions and structure, and a list of domains of activity and participation. In ICF, the term *functioning* refers to all body functions, activities and participation, while *disability* is similarly an umbrella term for impairments, activity limitations and participation restrictions. ICF also lists environmental factors that interact with all these components.



ICF is WHO's framework for health and disability. It is the conceptual basis for the definition, measurement and policy formulations for health and disability. It is a universal classification of disability *and* health for use in health and health-related sectors. ICF therefore looks like a simple health classification, but it can be used for a number of purposes. The most important is as a planning and policy tool for decision-makers.